

第21回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月21日（火） 16：00 - 18：50

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、中須賀委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、末富参事官、守山参事官

4. 議事要旨

(1) H3 ロケットについて

資料1、資料2に基づき文部科学省、JAXA、三菱重工から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（ : 質問・意見等 : 回答）

HTV-Xの打上げについては、H3ロケットのミッション要求では考慮されていないのか。

ミッション要求設定時には、まだHTV-Xの開発が決まっていなかったが、現在検討されているHTV-Xに固有となる事項に対して、HTV-X側が対応すればH3ロケットでの打上げが可能である。

H3ロケットの価格が下がる要因は何か。

車載部品や、一般的な材料等の採用、車等の他産業の製造工程を参考にした製造ラインの簡素化等によって価格を低減する。

価格を下げることはH-Aロケットでも逐次できたのではないか。

H-Aロケットでは、途中で工程を変えることが難しい。H3ロケットの開発の機会に集中的に取り組むものである。

審議の結果、H3ロケットについて詳細設計フェーズへ移行することが、宇宙産業・科学技術基盤部会として了承された。

(2) イプシロンロケットについて

資料3に基づきJAXAから説明を行った。

(3) 宇宙科学・探査について

資料4に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（以下、 : 意見・質問等）

プロジェクトマネージャの人材育成は重要であるが、プロジェクトマネージャの下でシステムを統括する者も重要である。

優秀な人材を見出すことは非常に難しい。そのため、大学院等でプロジェクトに関わるチャンスを増やすことが重要である。

(4) X線天文衛星「ひとみ」の異常事象について

資料5に基づき JAXA から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(: 質問・意見等 : 回答)

「ひとみ」の異常事象について、宇宙科学のコミュニティの考え方は現在どうなっているのか。

「ひとみ」の初期機能確認において、観測機器は高い性能を発揮しており、赤外線やガンマ線等の他分野からも期待されていたため、コミュニティの落胆は大きい。

再発防止策を実施することで、リソースの問題は生じないのか。

再発防止策は ISAS だけではなく JAXA 全体で進めていく。期間とコストが必要になるが、現在計画されている打上げに極力影響を与えないようにしたい。

仕事を行うのが人間である以上、必ずミスが生じる。それを検出し、食い止めるため、エラーを検出するソフトウェアなど物理的対策が必要である。

(5) 宇宙システム海外展開タスクフォースについて

内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(: 質問・意見等)

海外に宇宙システムを展開していくためには、継続して取り組んでいくことが重要であり、それにより海外とより深い関係を構築できる。そのための体制づくりを考えるべき。

(6) 宇宙政策委員会中間取りまとめに盛り込むべき事項について

内閣府から説明を行った。また、資料6, 7に基づき外務省、経済産業省から説明を行った。

本部会の議論の内容も踏まえ、宇宙基本計画工程表の改訂に向けた中間取りまとめに盛り込むべき内容については、部会長に一任となった。

以上